



ぼつんとひとつ、店の前に置かれた小さな緑色の看板になにやら古めかしい書体。得体の知れない店名に誘われ、「何屋さん？」と入り口のガラス戸を押し開けました。長いあごひげが特徴的な風貌の顔がパソコンの大きなモニターの脇から「にゅっ」。昭和の郷愁が漂うような手作りの看板と飾り気ない店内。少ないながらも品よく商品が並んでいます。アロマの香りが気分を癒してくれる小さなお店。5月には開店1年を迎えます。

路地裏を散策していて「おや、こんなところにこんな店が！」と思った経験はありませんか。意外な発見と既視感が一瞬混在したような感覚。そんな店のコンセプトは、古本と手仕事品、オーガニックアロマ、フェアトレード雑貨の販売。

「人が出会う場所、イベントが好きなので用途にとられず使える空間であればいいな」と由美さんがプロデュースした形。

「物の背景にある文化、人が集まることに興味があるんです」とさつそく自主イベントの開催を企画。昨年はドキュメンタリー映画「セヴァンの地球のなほし方」(2010年フランス映画・アックプリंक配給)、「モバイルハウ

スのつくりかた」(2011年日本映画・戸山創作所、スリーピン配給)、「みつろうとアロマのものづくりワークショップ」を開催。店名の「イシキト」は、「石と木」「意思と気」「意識」と「意識と音」。「言葉の不思議な響きと、扱う品物が言葉遊びのように共鳴するようでありたい」と決めたそうです。

◇ 2年前の3月15日、路線バスを使って2人で東川町を訪れたのが始まり。

「以前から東川町のホームページの良さと、水が良いということも分かったので」と選びました。

「絶対に『やばい』と思つた。とりあえず実家(札幌)に避難しても



店内ではフェアトレード商品を販売(手前の小瓶は下川町産のトドマツ精油アロマ)



東神楽町のNPO法人から店内に告知パンフレット依頼も

う東京に戻る気持ちにもなれなかった。たまたま東川に行つてみよう」と。そのまま空き家探しを始め、転居1年後に開店しました。

一昨年3月という「3・11東日本大震災」。

「職場のゆれ方もひどかったけれど、部屋の中が大変なことになっていた。電子レンジが飛んで、冷蔵庫の両開きドアがパカパカ開いて、中の牛乳が飛び散つて」。JR西荻窪駅前で営業していた店もすぐに閉めたそうです。

「生活基盤、生活の根本を見直したんです。災害が起きてしまうと、生活環境はすべてゼロになってしまう。最低限必要なものは、安全な環境と健康なんだなあ、と思います」。



お店の看板はグラフィックデザイナー、肅さんの手作り

松倉肅さん、由美さん/古本などイシキト/南町1丁目
☎090-6178-7622、HPは<http://ishikito-north.jimdo.com/>

昨年5月下旬、道道大雪山旭岳温泉線(基線道路)沿いに開店。肅さんは仙台市出身、44歳。東北学院大学中退。グラフィックデザイナー。東京都内のデザイン会社に17年勤務後退職して昨年3月に東川町に移住。現在は日中、「イシキト」の店舗兼SOHO(小規模個人オフィス)事務所でグラフィックデザインの在宅ワーク。由美さんは札幌市出身、44歳。北星学園女子短期大学卒業。NPO(特定非営利活動)法人・グラウンドワーク西神楽勤務。アロマセラピスト、国内大手流通業(東京転勤後に退職)を経て、歯科助手、商社、ソフトウェア会社勤務の傍ら、JR西荻窪駅前で小さな喫茶店「エチカ」を5年間経営。ご主人肅さんとはその店で知り合いました。

